

## 旧第11通学区 高等学校教育懇話会 第2回会議（内容要旨）

- I 日 時 令和2年10月16日（金）14:00～16:00
- II 会 場 長野県松本合同庁舎 講堂
- III 出席者 構成員 27名（代理出席者1名）  
事務局 市村教育委員会  
県教育委員会（上原主幹指導主事、山岸主任指導主事）
- IV 欠席者 構成員 3名（JA松本ハイランド 代表理事組合長、塩尻商工会議所  
会頭、安曇野市商工会 会長、代理出席：JAあづみ 組合長）  
事務局  
・市村教育委員会  
・県教育委員会（上原主幹指導主事、山岸主任指導主事）

### V 発言要旨

※全体進行：松本市教育委員会教育部教育政策課長

- 1 開会
- 2 趣旨説明（経過・要綱・構成員）について（上原主幹指導主事）
- 3 自己紹介（新しい構成員及び代理出席者のみ）
- 4 会議事項（進行：荒井座長）  
(1)「現状と課題」等（説明：上原主幹指導主事）

#### 【質疑応答】

○（宮澤安曇野市長）

県は、公立高校と私立高校の定員の割合を、公立8割、私立2割としているが、全国的に見て私立の割合が低い。高校の再編は、私立高校を抜きにしては考えられず、県教委は県全体の教育のあり方について論議していくべきと考えるが、見解をお聞きしたい。

⇒（上原主幹指導主事）

県もそこは重要視している。定員割合については県で、公立・私立高校のあり方懇談会を立ちあげて協議を進めており、2021年6月頃には新たな設定を示せると思う。私立との関係性については今後、しっかりと考えて検討していかなければいけないことだと思っている。

○（宮澤安曇野市長）

資料61Pにある望ましいとする募集定員について、再編基準の根拠は何か。

⇒（山岸主任指導主事）

部活の数の維持や教員の定数の問題など、様々な観点から検証したもの。

○（宮澤安曇野市長）

県は普通高校を重視し、職業高校を軽視していないか。職業高校を統合すればいいというような考えがあるなら修正してもらいたい。

⇒（上原主幹指導主事）

県としても普職両方の教育が重要と考えている。職業高校を軽視しているということはない。

- (2) 住民説明会の報告及び(3)再編・整備計画（1次）について  
(説明：上原主幹指導主事)

## 【質疑応答】

### ○（宮澤安曇野市長）

懇話会のあり方について、要綱では懇話会で出た意見・要望を県に提出し解散するとなっているが、昨年9月の議会答弁で、原山教育長はあり方を「研究する」と答弁している。整合性は図られているのか。

⇒（上原主幹指導主事）

議会答弁の内容を持ち合わせていないので、持ち帰らせていただきたい。

### （4）中学生の期待に応える学びの場について

## 【主な意見等】

### ○（橋渡安曇野市教育長）

小中学校では、コミュニティスクールを導入し、地域と共にある学校づくりを進めている。これにより、特色ある教育が進められるようになってきているとの実感を持っている。高校についても、高校と地域の連携推進をもっと進めるべき。その具体的な方策として県立高等学校においてもコミュニティスクールの仕組みを取り入れたらどうか。

### ○（杉村県ケ丘高校長）

県ケ丘高校では、信州大学と協力して、清水中学校と交流を進めており、地元の中学校と高校の交流も進めばよいと考える。また、文科省が進めるWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）の共同実施校になっているが、オンラインを使った海外研修には全県に参加を呼び掛けている。さらに課題研究では、発表会に企業賞を設けているが、これも県内の高校に幅広く参加を呼び掛けている。自分の学校だけでやっていたのではだめな時代。地域の学校が協力し合っていかなければならない。

### ○（田畑塩尻志学館高校長）

塩尻志学館高校は、平成12年から総合学科高校として歩みを始めた。1年生の塩尻学、上級生の起業家育成プログラムの他、多様な学びの分野では地元の企業と連携したワイン製造の授業、商品開発の研究、3年生の総合研究の科目など、地域の事業所などの協力により、学びを深めている。学びを学校の中だけで止めないこれからの時代、地域に開かれた学びを推進している。

### ○（保坂豊科高校長）

豊科高校は普通高校だが、近年は知識を身に着けるだけでなく、身に着けた知識を現実生活の中で生かす力が大事だというように学力観が変わってきている。学びは学校の中だけでは完結しないというのが今の考え方で、探求的な学習を生徒が自由にできる日を設定している。また、生徒の高校入学前からの学びの継続が大事なことから、中学校の先生と連携し情報を共有している。以前にくらべると、普通高校でも地域との連携の機会は増えている

### ○（藤田鉢盛中学校長）

鉢盛中学校では、1年生から地域学習を取り入れながら地域の特色を生かした学びを進めている。親、教職員以外の人と子どもたちが関わりながら広く学ぶことはとても大事なこと。来年度から中学も教育課程が変わるが、アクティブ・ラーナーの育成を継続的に行えるよう、中高の連携が図られると良い。また、進路指導をする上で、その高校に行って何をするのか、早くから子どもたちがビジョ

ンを持って進学できるよう、各校の広報の工夫や、中高の連携が求められる。

○（小林塩尻中学校長）

中学生期において、色々な人との関りを持つコミュニティスクールの活動は大きな役割を担う。中学生が自分の課題を持って興味・関心のあることを地域の方と関わりながら作り上げていく経験は、探求的な学習の入口になる。塩尻では、両小野中学校の地域貢献型の生徒会や、丘中学校の丘カフェなどそれぞれの学校で特色ある活動が行われており、学校と地域が繋がっていく状況は子どもたちの大きな成長の材料になっている。また、今の中学生が非常に多様な姿を持つことから、高校に様々な学びの環境があることが求められており、一律になっていくことはあまり良い事ではない。

○（内川三郷中学校長）

高校の在り方は、学びの充実、授業の充実が一番の本質。子どもにとって魅力ある学びとは、学んでいることに意味を感じる、自分の将来につながっていくと感じること。地域との関わりでは、本校では三郷セルフという形で、地域の方を講師に、子ども達が興味を持ったことを課題別に大学のゼミのような形で探求する取組みを行っている。子どもは、地域の方に認められることでやりがいを持ち、将来の社会の担い手としての自覚も育つ。高校でも、こうした体制をどう作っていくかが大事。また、高校での学びが、資格や進学にどう結びついていくか、将来の夢にどう答えていくかも考えていかなければならないこと。ネットで世界とつながる時代、日本、世界のトップレベル、最先端のものと繋がっているような高校が魅力的なのは。

○（古屋松本市PTA連合会長）

高校に行く際には、生徒の希望を聞いて進路指導をしてもらうが、実際に高校に入学したら自分の考えていたものと違ったという子どももいる。高校ではどんな授業を行っているのか、オンライン授業には対応しているのかなど、細かな情報も中学校に伝えてもらいたい。また、子どもには、社会に出るうえで必要なことを高校で学んで卒業してもらいたい

○（渡邊東筑摩塩尻PTA連合会長）

仕事から色々な学校に行くことがあるが、公立と私立の工業高校では、私立の方が、設備が整っていると感じる。また、保護者の立場から言うと、身近な場所に魅力ある学校があると安心して通わせることができる。

○（出水安曇野市PTA連合会長）

大人が考える中学生の期待ではなく、中学生自身の思いは把握出来ているのか。個人的には、中学生には基本的な倫理観や道徳心などが十分に備わっていると感じている。自分の将来について中学生の段階で考えて高校を選択すべき。

○（臥雲松本市長）

このエリアでは私学の数が増加し、第1志望が私学ということも珍しくなくなっているのが現状。これは、一つひとつの特色を磨き上げることにより、現段階では公立よりも私立の方がより取り組んでいて、子どもにとっても、保護者にとっても、自らの希望ある将来や魅力ある職業に繋がる可能性を感じているということではないか。統合再編を考える前に、普通科であれば輪切りの偏差値を越えた特色の競い合いが行われて、職業校、専門校であれば将来につながる学校

とはどういうものであって、先端技術や最新の情報に常にアップデートができるということが望まれる。それらの実現には予算の問題などに県教育会全体でどう向き合っていくのか、ということが問われる。公立の小中学校においても同じ問題に直面していて、それぞれ立場などに違いはあるが、根底は個性を磨きトータルとして多様性を持った教育環境というものをどう作っていくかということ、まずは掘り下げて考えられればと思う。

(5) 今後の進め方について（報告と事務局提案：山岸主任指導主事）

- ・今後のスケジュール案を説明
- ・部会を3つ設置し、3回から4回開催し、論点を深めていく。
- ・10月12日（月）に開催された「旧12通学区の協議会「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」から旧第11通学の懇話会と合同協議の場を設けたいということが全会一致で確認され、要請されている。

【質疑応答】

○（橋渡安曇野市教育長）

研究部会について3点の課題がある。1点目、旧12通学区は協議会、旧11通学区は懇話会であり、それぞれ性格の異なる会だと理解しているが、合同部会は何を目指す部会なのか明確にする必要がある。2点目、日程について、合同部会と研究する部会を両方開催するのは難しい。3点目、旧11、12通学区という広域的な大きな課題を検討するのに一部会が責任を負って検討するというところに重荷を感じる。要望として、安曇野も研究部会を行った後に合同部会を開催したい。また、懇話会全体でも広域的な問題についてどのように考えるか意見をもらいたい。最後に研究部会には市村長も参加できるのか、他の研究部会への参加も可能か。

⇒（山岸主任指導主事）

3点の課題については受け止めさせていただき懇話会事務局の市村の教育委員会と共有させていただく。合同部会の時期については相手のあることなので、旧12通学の協議会と相談し、決定したい。市村長の研究部会への参加、他の研究部会への参加は可能。

○（宮澤安曇野市長）

旧12通学区との合同部会は、県教育委員会の提案を受けてのものだと聞いている。しかし、今日の報告では、旧12通学区の協議会で出された方向性とのことだが、経過を説明してもらいたい。また、懇話会の要綱の目的では、旧11通学区内の将来を見据えた高校教育について検討し、県教育委員会に意見・要望するとなっているが、要綱の目的は変更になったのか。また何故、旧11通学区と旧12通学区だけが一緒になってやらなければいけないのか。最初から現在の4通学区ごとにやるべきだったのではないか。

⇒（山岸主任指導主事）

旧12通学区との合同開催については、実施方針によるもの。要綱の目的はこの通りだが、生徒の流出入が多い事、経済的にも文化的にも一体化した地域であることが合同開催の理由。地域の高等学校のことを共に考える姿勢が必要と、我々としては考えている。また、他の地区については実施方針にも合同実施の方針はなく、各地区からも開催を求める声もない。

○（宮澤安曇野市長）

スケジュールありきで進めることなく、しっかりと議論を重ねるべきと考えるが見解は。また、要綱には代理出席について記載がないが、代理は認めるということではよいか。

⇒（上原主管指導主事）

スケジュールありきでなく慎重に検討してもらいたいが、今後については事務局と相談しながら進めさせていただきたい。

○（荒井座長）

代理出席については要綱の2の（6）を中心に、事務局と調整して示させていただく。

※荒井座長による論点整理

【中学生の期待に応える学びの場について】

- ①公立私立共に、地域（地域住民、大学、民間企業、様々な職種）との関係を深めている
- ②高校間の連携
- ③学びを一つの学校の中だけで完結するのではなく外に開いていく。
- ④キャリア教育を中軸に置きながら学びを展開
- ⑤学力の在り方が変わってきている（知識をいかに生かしていくかということの重要性）
- ⑥多様な学びの実現には一定程度の設備（最先端の技術を支える施設・設備）の充実が必要
- ⑦学校側としての特色が本当に子供たちにとって魅力なものとして映っているか
- ⑧子どもの視点から様々なソフト、ハード、学びの在り方の環境整備について考慮する必要がある。

【今後の進め方について】

研究部会、合同部会の設置については様々な意見改善策等いただいたので改めて調整して進めていく

7 その他（特になし）

8 閉会